

■防災資機材の紹介

○男性ナレーション

札幌市では、自主防災活動を支援するため、消火・救出・救護活動に必要な資機材のうち、基本的なものをセットにして、自主防災組織に支給しています。

セットの内容は、まず、消火活動用として、組み立て式水槽、消火用バケツ、モンキーレンチがあります。

救助活動用として、おの、シャベル、ハンマー、のこぎり、かなてこ、ジャッキ、かませ木、折り畳み式担架、このほかに、救急セット、ヘルメット、ロープ、これらを保管するための収納箱があります。

キャリー型の収納箱の場合、資機材をまとめて移動できますが、箱型タイプの収納箱を移動させる場合は、中の資機材を手分けして運び出しましょう。箱型の収納箱は、水槽としても使えます。

それでは、組み立て方や使用上の注意をご紹介します。

■ジャッキの使い方

○男性ナレーション

ジャッキは、倒壊した建物や家具などに挟まれた人の救出に使用します。かませ木は、ジャッキと組み合わせ使用するもので、ジャッキの高さ調整や救助の安全確保に役立ちます。

まず、ジャッキを使用する前に、ジャッキをかける場所の確認を行い、高さが足りない場合は、ジャッキの下にかませ木を入れて高さを調整します。

かませ木は、平らなところなど安定した場所に置くことが重要です。不安定な場所や崩れやすい場所で使うと、ジャッキアップの途中で倒れるなど、被害をさらに大きくしてしまうことがあります。置く場所には十分気をつけてください。

ジャッキアップでできた隙間には、かませ木などを確実に差し込んで支え、持ち上げた部分が落下しないよう安全を確保します。

現在支給しているジャッキは、爪つきタイプとなっています。このジャッキは、隙間が小さいところでも使用できるようになっています。ただし、爪の奥行きには限りがありますので、ジャッキをかける場所の確認を確実に行ってください。

こちらのタイプでも、かませ木を使ったジャッキ高さの調整や安全の確保をする方法は同様です。

■組み立て式水槽の使い方

○男性ナレーション

組み立て式水槽は、初期消火のため、消火栓などからの水をためるものです。

組み立て方法は、まず、円形のプールになるように広げます。できるだけ水平な場所に広げてください。

このままでも水を入れると水の重さで自立しますが、より安定性を高めるには、付属の補強棒を使用します。4本の補強棒をジョイントパイプを使ってつなぎ合わせて1本にします。棒は弾力がありますので、ジョイントパイプでつなぐ際や曲げる際、取り外す際には十分ご注意ください。補強棒のつなぎや取りつけが難しい場合は、無理につけず、水平な場所で使うようにしましょう。

1本につなげた補強棒を水槽上部の縁の穴から通していきます。補強棒を通し終わったら、補強棒の両端をジョイントパイプでつないで完成となります。

■組み立て式担架の使い方

○札幌市消防局消防隊員

組み立て式担架は、折りたたんで収納されています。組み立ての際には、できるだけ手袋やあて布などを用意してください。

まず、折りたたまれている担架を伸ばします。

左右それぞれの支持棒を一直線上にそろえ、スライドロックレバーを起こします。

スライド部分を滑らせて押し込み、レバーを倒してロックします。カチンと音がするまで、しっかりと押し込んでください。このときに、指や手を挟まないように十分注意してください。ロックの確認は、ロックピンが飛び出していればオーケーです。

次に、左右の指示棒を広げてロックします。

くの字になっているアームをしっかりと押し込み、真っすぐにします。このときも、手を挟まないように十分注意してください。

最後に、取っ手部分を伸ばして完成です。このときも、ロックピンがカチンとなるまでしっかりとスライドさせ、完全に伸ばしてください。

人を載せるときは、担架から頭が落ちない位置に載せてください。

移動は、進行方向に足を向けます。頭を足より少し高くすると、運ばれる人の視界が確保され、安心感が増します。運ぶ人の背の高さを配慮するとよいでしょう。

二人だけで長い距離を運ぶときには、ショルダーベルトを使用する方法もあります。

担架を折りたたむ際も、指などを挟まないよう十分に注意しましょう。特に、スライドロックレバーを外す際には、ロックピンを抑えながらレバーを取り外すこととなりますので、ご注意ください。